



## 市中総体を終えて～生徒それぞれの思いは～PART1～

時間の過ぎるのは早いもので、早くも1年の半分が過ぎようとしています。3年生になってからも、3ヶ月が過ぎ、中学校生活も残り9ヶ月となります。市中総体が終わり、中間考査も終了して、生徒は7月9日(金)の「北中発表会」に向けて準備を進めています。明日からは、その強化期間に入り、特設の7時間目(30分間)で、各学級の合唱練習に取り組みます。今週の金曜日には「学年合唱リハーサル」が行われ、これまでの取り組みの成果を発表することになります。9日の「北中発表会」では、3年生らしい素晴らしい歌声を響かせてくれると思いますので、ぜひ楽しみにしておいてください。

さて、市中総体が終了した次の日に、子どもたちは「市中総体を終えて」と題して作文を書いています。その中から数人抜粋して掲載しますのでぜひお読みください。生徒それぞれの思いが伝わってきます。今回は1組の生徒の作文です。次回は2組です。お楽しみに！



### 「屈辱」

3年1組 TOさん(剣道部)

6月13日、区の中総体で北中男子剣道部が優勝しました。彼らはこの日のために一致団結をし、互いが互いを支えながら死ぬほど努力して、修羅の道を歩んできました。これが努力の結晶となり、長年のライバルであった第一中学校と決勝であたり、彼ら北中剣道部は優勝することができました。私は、彼らが栄光を掴み喜び合っている姿を見て、とても心を打たれました。努力が報われることは何よりも美しい。私は彼らが優勝してくれて本当に嬉しかったです。しかし、私の頭の片隅には1つのある感情が生まれました。その感情というのは、最後の中総体でレギュラーメンバーになることができなかった自分への怒り、悲しみ、哀れ、複雑な感情が入り交じったものです。私は、中学校から剣道を始めました。周りが小学校や幼稚園から始めている人ばかりだったので、私は人一倍努力する必要がありました。しかし、私は人一倍努力するどころか、人より努力していなかったのです。顧問の先生や部員、そして応援してくれていた家族をも裏切り、努力を怠っていました。後輩にレギュラーメンバーの座を奪われことほど恥すべきものはないでしょう。私は青春を満喫するために剣道部に入りました。しかし、私は本当に青春を満喫できているのでしょうか。満喫せず、剣道部にインパクトを与えないまま卒業するのは嫌なので、レギュラー入り目指して死ぬ勢いで剣道に励みたいと思います。

### 「私は3年間で」

3年1組 MSさん(バドミントン)

私の3年間の部活生活には色々なことがありました。1年生で何となく選んだバド部で、自分の希望ではなかったシングルで部活動が始まりました。2年生では、コロナによる部活中止となり、校内試合でも3人中3位で新人戦の団体戦のベンチに座ることができませんでした。3年生となり、何回目かの校内試合が行われ、3人中2位となり中総体団体戦でベンチに座ることができました。観客席と全く違う景色で、今この場所にいるんだと実感がわきました。次の日の個人では午後に試合がありました。台原中学校の第1シングルの人と戦い、2対0で勝つことができました。1セット目では、自分の見えるところは他のコートのみだったのが、2セット目では、台原中学校の観客席が見えて、相手に点をとられると拍手が聞こえてきて、大きなプレッシャーを感じました。同じくらいの強さの相手に勝つことができ本当に良かったです。翌日は午前中に試合があり、相手は仙台一中の小学校からバドミントンを始めたジュニアの人で、0対2で負けてしまいました。1セット目は4点くらいしか取れなかったけれど、2セット目では10点くらい取れたので良かったと思います。相手の人も焦っていたと聞き、ジュニアの人を少しでも追い詰めることができたので、3年間バドミントンをしてきた甲斐があったと思いました。また、負けたというよりもやり切れたという達成感が強く残りました。正直あまり乗り気ではなかった部活動だけれど、人間としての大切なことを、たくさん身を持って感じることで、とてもやってきて良かったと思いました。中学校生活の大切な思い出の1つとなり、3年間やってこれたことに感謝しようと思います。

